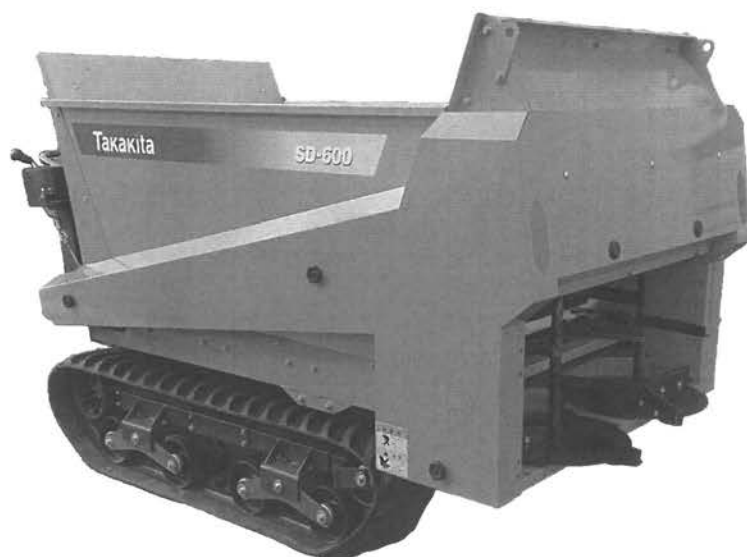


取扱説明書及び部品表

Takakita

自走マニアスプレッダ

SD-600



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットから右記QRコードを読み込んで
アクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	9
各部の名称とはたらき	10
運転に必要な装着の取扱い	12
1. 給油のしかた	12
2. エンジン始動のしかた	12
3. エンジンスロットルレバー ・チョークレバー	13
4. 走行クラッチレバー	13
5. サイドクラッチレバー	14
6. ブレーキレバー	14
7. セーフティレバー (挟圧防止装置)	14
8. 変速レバー	15
9. 作業クラッチレバー	15
10. ゲート	16
11. シート	16
12. 安全装置の取扱い	16
作業前の点検について	17
1. 点検一覧表	17
運転のしかた	18
1. 新車の取扱い	18
2. 走行順序	18
3. 停止順序	18
4. 走行時の注意	18
作 業 方 法	20
1. 作業手順と要点	20
2. 堆肥の積込み	21
3. 散布量 (ゲート開度) の調節	21
4. 散布方法	22
5. 移動するときには	22
6. トラックへの積込み・積下ろし	22
7. トラック及びトレーラでの運搬	23
簡単な手入れと処置	24
1. カバーの取り外し方	24
2. エンジンの点検・調整	24
3. エンジンのエアクリーナ	24
4. エンジンオイルの点検と交換	24
5. ギヤボックスオイルの点検	25
6. クローラ張力の調整	26
7. 変速レバーの調整	26
8. サイドクラッチの調整	27
9. 走行クラッチの調整	27
10. ブレーキの調整	27
11. 作業クラッチの調整	28
12. コンベアチェンの調整	28
13. 各部のベルトの調整	29
14. 各部への注油、グリスアップ	30
15. 日常の管理について	31
16. 長期格納時の手入れ	31
17. 使用済廃棄物の処分について	31
不 調 診 断	32
付 表	34
1. 主要諸元	34
2. 主な消耗部品	35

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走マニアスプレッタ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

- | | |
|------|--|
| ⚠ 危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

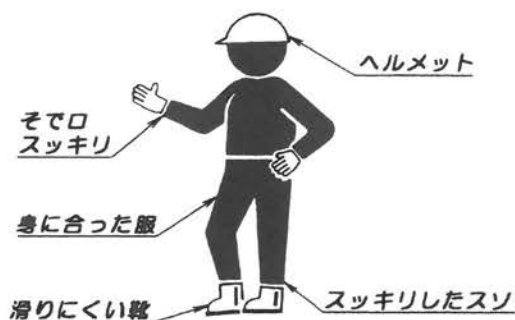
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

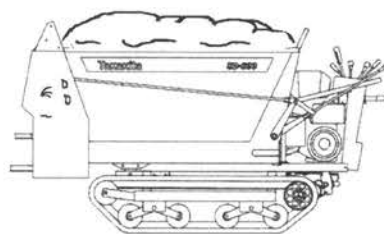
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。

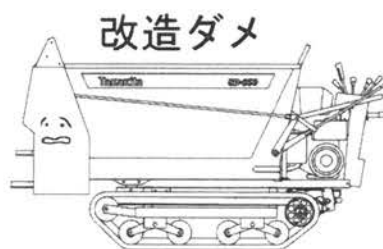
積載量は平地で600kg、傾斜地作業は最大傾斜15度までとし、そのときの積載量は350kgです。



(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(5) 使用目的以外への使用禁止

堆肥を散布することを目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

⚠ 安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



(7) 運転者以外に人を乗せない

本機の乗車定員は1名です。運転者以外、人を乗せないでください。

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを止めてから行ってください。

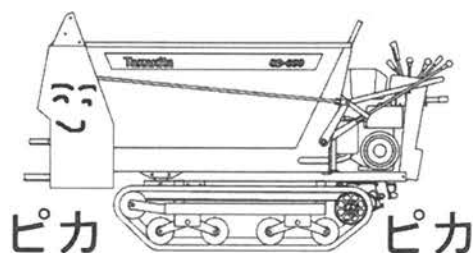


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

(5) 機械を常にきれいに

エンジン・マフラ・ベルトカバー・などに枯草、芝草がたまっていると、おもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



(6) 排気ガスには充分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、充分換気を行ってください。

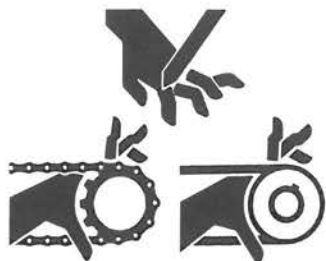


⚠ 安全に作業するために

(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ず作業クラッチを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



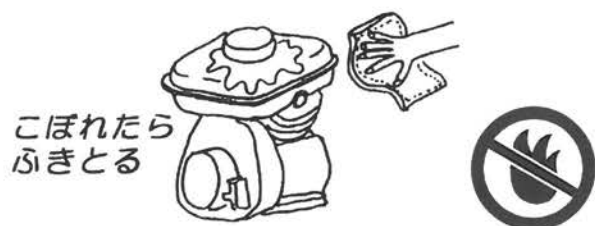
(8) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



(9) こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(10) 長期格納するときは

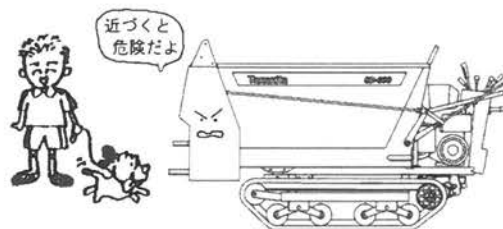
機械を清掃し、回転部およびチェーンには充分注油し、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。



(2) エンジンを始動するときは

作業クラッチおよび走行クラッチを切り、変速レバーを中立「N」にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

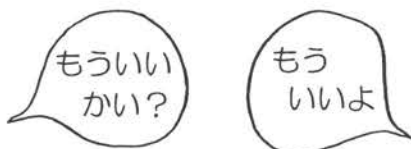
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) 散布する堆肥の異物は取り除く

散布する堆肥には石・木片・鉄片などの異物を混入させないようにしてください。機械の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して危険です。



(5) 散布作業するときは

散布作業中は散布方向に堆肥が10m前後飛散します。散布方向に人がいないことや障害物のないことを充分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



(6) 保護メガネ着用

肥料や堆肥が飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用して作業してください。



保護メガネ着用
保護マスク着用

(7) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

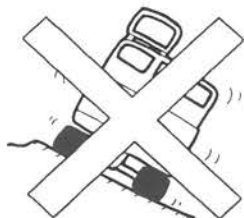


⚠ 安全に作業するために

(8) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。



- ② チェンジ操作は行わず、変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジンプレーキを使用してください。

(9) 回転中のピータやコンベアバー・

コンベアチェーンには触れない

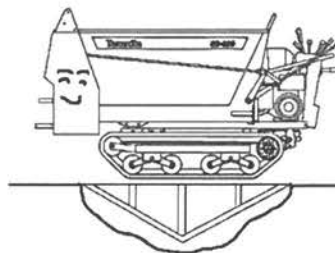
回転しているピータやコンベアバー・コンベアチェーンに、手や足を絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。

(10) 移動及び作業の旋回的时候は

「移動4」での急旋回は行わないでください。転倒・転落の恐れがあります。旋回時に片方のクローラをあぜに乗り上げたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあり危険です。

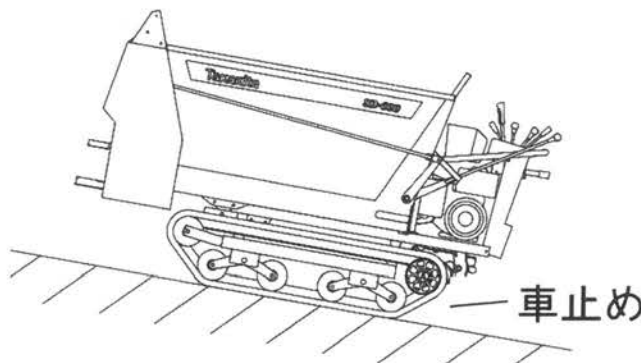
(11) 溝やあぜを横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(12) 作業途中で運転席より離れるときは

本機を止めておくときは、平坦な場所に置き、エンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。やむを得ず坂道に駐車するときは、車止めをしてください。



(13) 後進して作業するときは

後方に障害物のないことを充分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(14) あぜの乗り越え

畦畔を越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わるので十分に注意し、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使ってください。



(15) 高温油に注意してください

- ① 高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やギヤボックスのオイル交換はしないでください。作業前か充分温度が冷えてから行ってください。
- ② 火傷やケガを負った場合は、速やかに医者 の診療を受けてください。



4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道は走行できません

本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへの積込み・積降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行ってください。

積込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。

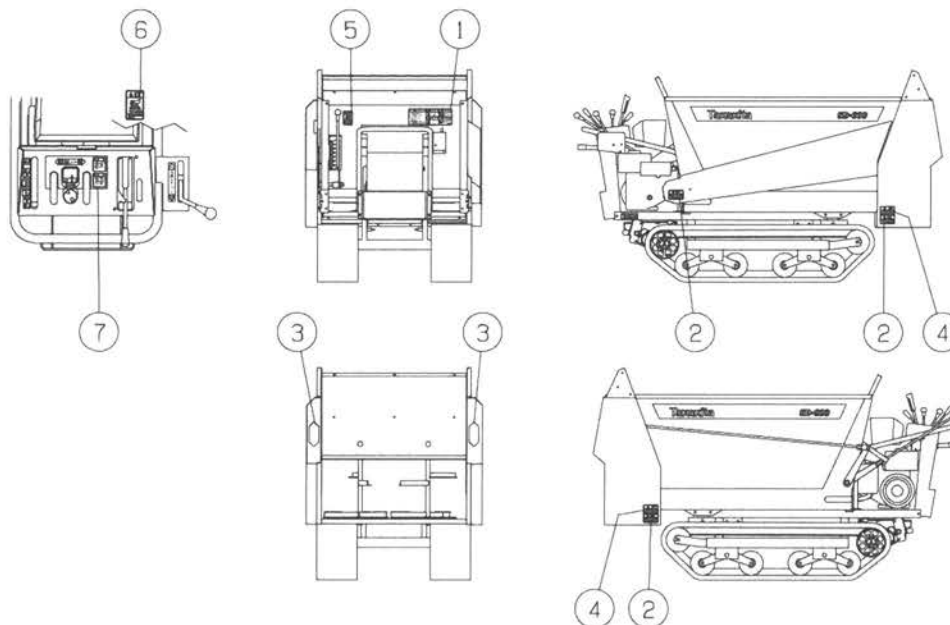


以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



① 部品コード 001206002371

注意 - 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を参照するまでお読みください。 - ラベルが傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、新しいラベルを指定の場所に貼ってください。 - エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。 - 作業中は人や物を近づけないでください。 - 本機から降りるときは、必ずエンジンを停止し、停止めをしてください。 - 斜道での起車時は駐車止めをしてください。 - 点検・調整時は必ずエンジンを止めてから実施してください。 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 - 公道走行はできません。トラック等で運送してください。	警告 エンジンを作動する時は作業クラッチを「切」にしてください。ピークおよびコンベアが直転し怪我をする恐れがあります。 警告 エンジンが動いている間は「コ」を外さないでください。熱くなったエンジンで、やけどをする恐れがあります。	危険 進行方向の安全を常に確認して走行してください。障害物にはさまれたり、衝突により重大な傷害発生のおそれがあります。 危険 急発進、急減速、急回頭の操作は行わないでください。転倒や転落して重大な傷害発生のおそれがあります。
---	--	--

②部品コード 001206000800

③部品コード 001206001010



⚠ 安全に作業するために

④部品コード 001206000910



⑤部品コード 001206000390



⑥部品コード 001206000420



⑦部品コード 001208002282



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないようにしてください。また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、牛糞などの堆肥を散布する作業にご使用ください。

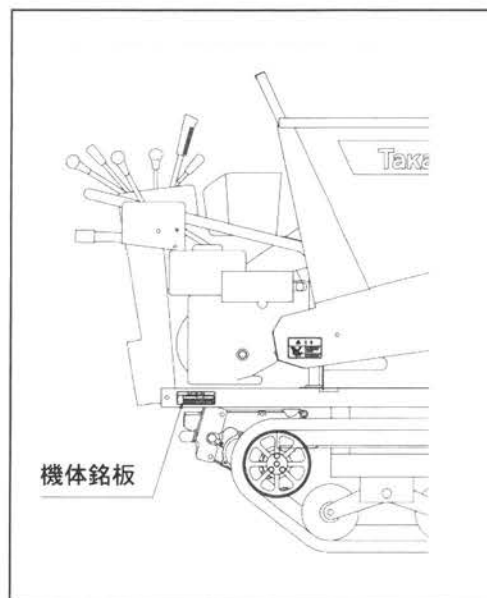
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

機体銘板貼付け位置図

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、またはお近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

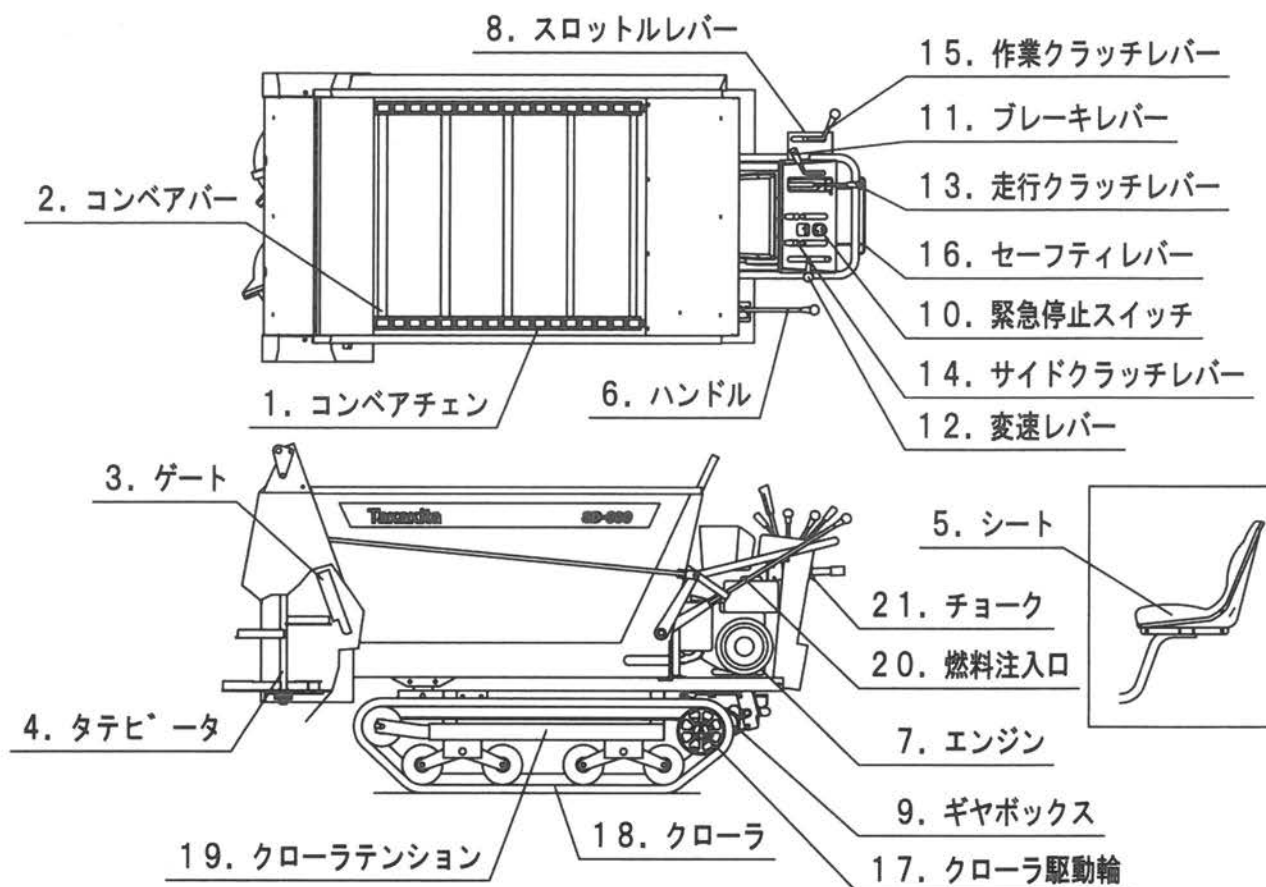
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	自走マニアスプレッダ
型 式	SD-600
機 体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



番号	名称	はたらき	参照 ページ
1	コンベアチェン	コンベアバーを連結します。	28
2	コンベアバー	堆肥を後方のタテビーターまで運びます。	—
3	ゲート	移動時の堆肥の後方へのこぼれを防止するとともに、散布時に肥料の定量送りをします。	16
4	タテビーター	コンベアバーで運ばれてきた堆肥を散布します。	—
5	シート	作業者の座席です。(オプション)	16
6	ハンドル	ゲートの開度調整をします。	16
7	エンジン	動力源、燃料はレギュラーガソリンを使用します。	12
8	スロットルレバー	エンジン回転速度を調整します。	13
9	ギヤボックス	走行部のクローラへ動力を伝達します。	25
10	緊急停止スイッチ	エンジン始動時は押して右にひねって「運転」位置にします。押して「停止」位置にすればエンジンが停止します。	13
11	ブレーキレバー	引くとブレーキが効きます。	14
12	変速レバー	前進・後進それぞれ2速の変速ができます。	15
13	走行クラッチレバー	「入」位置に入れると、エンジンの回転がベルトによりギヤボックスに伝達されます。	13

各部の名称とはたらき

番号	名称	はたらき	参照 ページ
14	サイドクラッチレバー	旋回側のサイドクラッチレバーを手前に引くと、旋回します。	14
15	作業クラッチレバー	タテビータ、コンベアの動作の「入」「切」を行います。	15
16	セーフティレバー	機体が後進している状態で、セーフティレバーを前方へ押すと、走行クラッチレバーが「切」の位置まで動き、機体は止まります。	14
17	クローラ駆動輪	クローラを駆動させる側の駆動輪です。	30
18	クローラ	ゴム製の走行覆帯です。	26
19	クローラテンション	クローラの張り具合を調整します。	26
20	燃料注入口	エンジンの燃料タンクの注入口です。(タンク容量 3.2ℓ)	12
21	チョーク	エンジンを始動するとき「閉」位置にします。	12

運転に必要な装置の取扱い

台車部分の詳細については同梱されている取扱説明書の運搬車XG655の欄を参照してください。

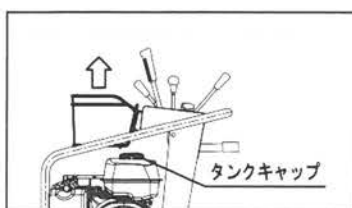
1. 給油のしかた

危険

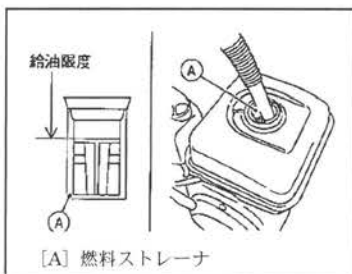
●火気厳禁

給油時は、エンジンを必ず停止してください。

- 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。
引火爆発・火災の原因になります。



- ① バスケットを持ち上げて外し、タンクキャップを外します。



- ② 燃料ストレーナ [A] を介して燃料をゆっくりとタンクに注ぎ込みます。

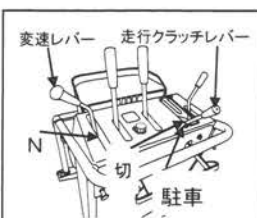
燃料…自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
- 燃料キャップが締まっているか確認してください。

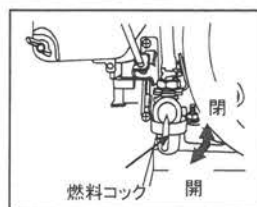
注意

- ◆燃料を入れすぎると、タンクから溢れます。入れ過ぎないでください。

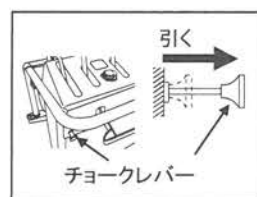
2. エンジンの始動のしかた



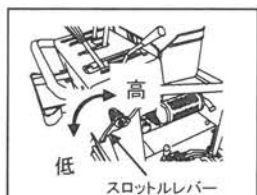
- ① 走行クラッチレバーが「切」か「駐車」の位置にあることを確認してください。
- ② 変速レバーが「N」ニュートラルにあることを確認してください。



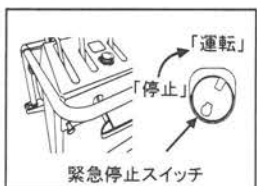
- ③ 燃料コックを「開」にしてください。



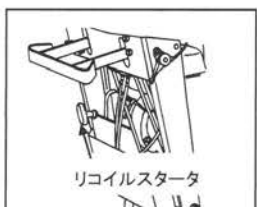
- ④ チョークレバーを「閉」にしてください。
・エンジンが暖まっているときはこの操作は必要ありません。



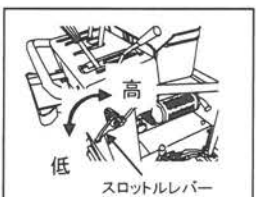
- ⑤ アクセルレバーを「高」側に少し動かしてください。



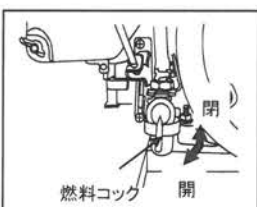
- ⑥ 緊急停止イッチを押したまま右に回し「運転」にしてください。



- ⑦ リコイルスタータを勢いよく引き、エンジンを始動してください。



- ⑧ エンジン始動後、スロットルレバーを「低」にしてください。



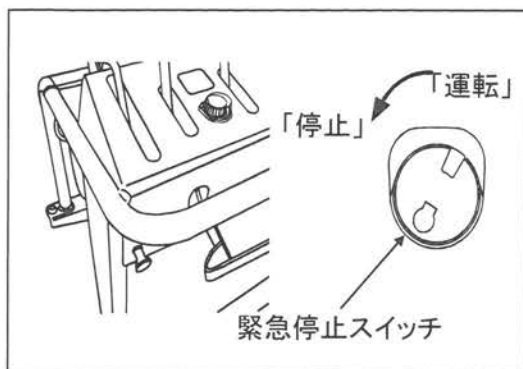
- ⑨ チョークレバーを戻してください。
- ⑩ 約 5 分間、無負荷で暖気運転してください。

注意

- ◆最初の約 40～50 時間はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転に必要な装置の取扱い

エンジン停止する時



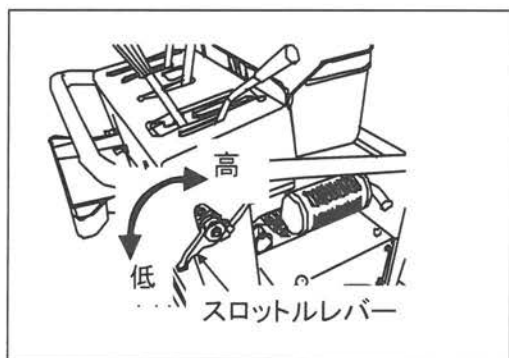
緊急停止スイッチを押して、エンジンを停止してください。

緊急停止スイッチを押すと自動で「停止」になります。

3. エンジンスロットルレバー・チョークレバー

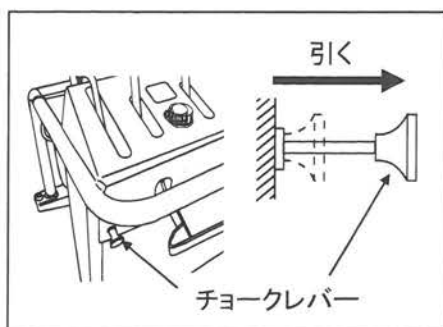
◆エンジンスロットルレバー

エンジンの回転速度を調整するレバーです。下図のように前方へ倒す程、エンジンの回転速度が高くなります。

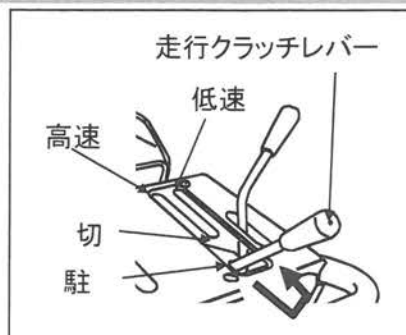


◆チョークレバー

エンジンが冷えている時に始動する場合は、チョークレバーを引き「閉」にして始動してください。



4. 走行クラッチレバー



◆走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを上図のように低速または高速に倒すと、入力が入り車両が発進します。

発進時は危険防止のため、ゆっくりとレバーを操作してください。

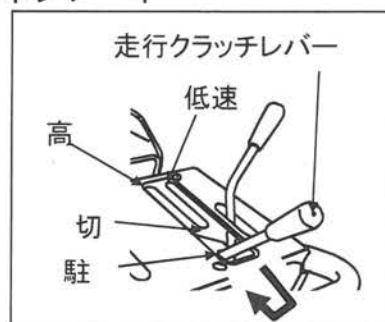
注意

- ・エンジンがアイドリング状態で走行クラッチレバーを入れると、エンジンがストップする場合があります。エンジンの回転速度をある程度上げてから、走行クラッチレバーを入れてください。

警告

走行クラッチレバーはゆっくり「入」にし、スムーズに発進してください。急発進すると、身体に危害を及ぼす恐れがあります。

◆駐車ブレーキ



走行クラッチレバーを、手前に倒すことで駐車ブレーキがかかります。

駐車する時は、走行クラッチレバーを必ず駐車位置にしてください。

運転に必要な装置の取扱い

注意

本機から離れる時には、走行クラッチレバーを必ず駐車位置にしてください。

5. サイドクラッチレバー

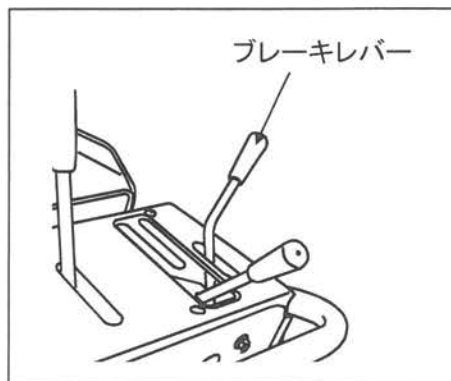


右に旋回するときは、右のクラッチレバーを引き、左に旋回するときには、左のクラッチレバーを引いてください。
機体を旋回させる時は速度を落とし、数回にわけてゆっくりと旋回してください。

！ 警告

- 高速走行時、レバーを急操作すると、急旋回して危険ですので行わないでください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみ込む恐れがあるのでさけてください。
- 旋回時に片方のクローラをあぜに乗りあげたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。守らないと、転倒したり、クローラが外れたりする恐れがあり危険です。

6. ブレーキレバー

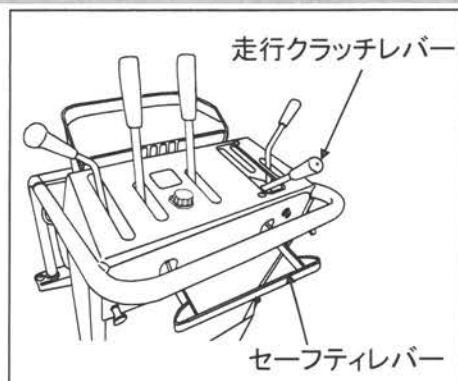


ブレーキレバーを引くとブレーキが効きます。

注意

- くんだり坂で、レバーを強く引くと、転倒したり、エンジnstoppします。緩やかに引いてください。
- エンジン回転を落とし、エンジンブレーキを利かせてから、レバーを引いてください。

7. セーフティレバー (挟圧防止装置)



機体が後進している状態で、セーフティレバーを前方へ押すと、走行クラッチレバーが「切」の位置まで動き、機体は止まります。

注意

- 後進時立木や建物の間に挟まれると、走行クラッチが切れ、機体が停止しますが、周囲の安全を十分に確認してから、運転してください。
- ブレーキを効かせる場合は、走行クラッチレバーを更に引くか、ブレーキレバーを引いてください。

運転に必要な装置の取扱い

8. 変速レバー



本機の走行速度を選択するレバーです。

《車速選択の目安》 (km/h)

	変速	車速
走行速度	前進 1 速	0. 7 9
	前進 2 速	1. 4 0
	前進 3 速	2. 5 5
	前進移動 4	4. 5 4
	後進 1 速	0. 6 5
	後進 2 速	0. 8 7
	後進 3 速	2. 1 1
	後進移動 4	2. 8 3

※作業速度は使用条件により誤差が発生します。

- ・変速レバーが入りにくい時は、走行クラッチレバーを「走行」側に少し動かしてから再度入れ直すと入りやすくなります。

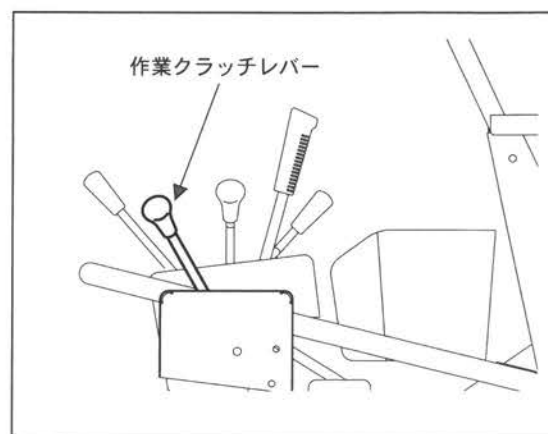
注意

変速レバーの切換えはギヤボックスを傷めないよう、必ず走行クラッチレバーを切り、機体が完全に停止した状態で行ってください。

警告

「移動 4」での急旋回を行わないでください。転倒・転落する恐れがあります。

9. 作業クラッチレバー



作業クラッチレバーを前方に倒すと、クラッチが「入」となり、タテビータが作動します。

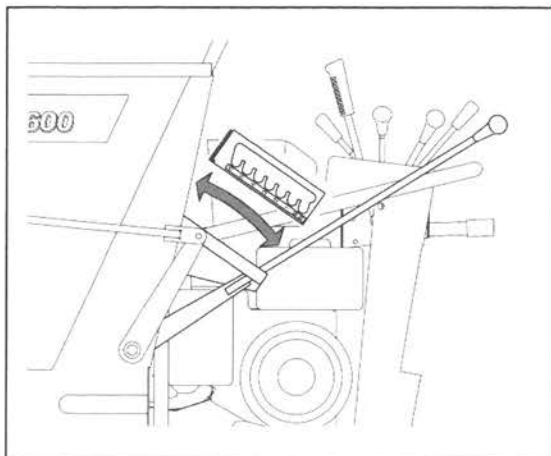
作業クラッチレバーを後方に倒すと、クラッチが「切」となり、タテビータが停止します。

警告

- 作業クラッチレバーを「入」にするときは、まわりに人がいないことを確認のうえ、ゆっくりとつないでください。
- エンジン始動時は、突然タテビータが動きださないよう、作業クラッチは必ず「切」にしてください。

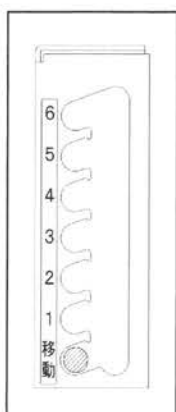
運転に必要な装置の取扱い

10. ゲート



ゲートの高さは6段階に調整できます。

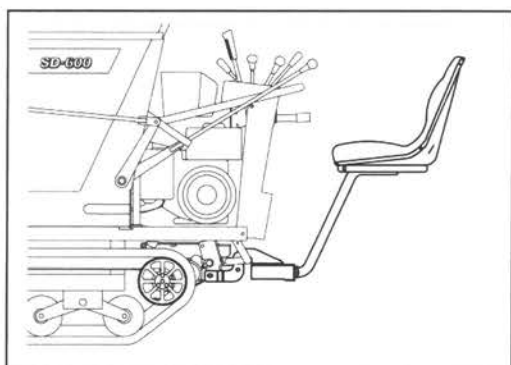
◆ゲートの調整方法



ハンドルを上下させることで開度調整ができます。

- ・ハンドルを上下させ、ゲートが希望の開度になる位置にハンドルを入れてください。
- ・移動時は左図移動の位置にしてください。

11. シート (オプション)



取付方法等につきましては、シートアタッチ付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

- ほ場内の平坦地以外で乗車しないでください。
- 坂道・凸凹の有る所で乗車すると、転倒・転落する恐れがあります。

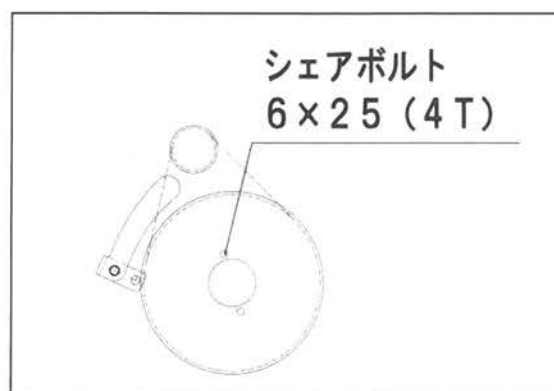
12. 安全装置の取扱い

安全装置として、コンベア駆動部にシェアボルトがあります。

◆コンベア部の安全装置

左側面カバー内にあります。切損した場合、必ずエンジンを停止し穴を合わせてボルトを入れます。

使用するボルトは、M6×25-4Tの半ネジ (1本) のみです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。



注意

堆肥の積込量が多い場合や異物がある場合はエンジンがストップする場合があります。

上記の場合は堆肥の積込量を減らしたり、異物を取り除いてください。

◆シェアボルトがよく切損する場合

堆肥の塊等を取り除いて作業してください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

⚠ 警 告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをする恐れがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。まもらないと火災の原因となります。

点検一覧表

項 目		内 容	参照ページ	チェック
本機を廻つて	前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
	損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
	クローラの張り	適正な張力	26	
	エンジンオイル	オイル量と漏れ	24	
	エンジンの燃料	燃料（ガソリン）の汚れがないか	(エンジンの取説)	
	エンジンのエアクリーナ	エアクリーナの汚れ（重要）	24	
	配線コード	コードの被覆のはがれ、接続部の緩み	—	
エンジンを始動して	各部への注油・グリスアップ	各部への給油参照	30	
	走行クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	13	
	ブレーキレバー	作動確認	14	
	作業クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	15	
	サイドクラッチレバー	スムーズな動き	14	
	エンジン音	異音がないか	—	

運転のしかた

1. 新車の取扱い

新車は、使用時間50時間までの取扱いが大変重要です。この時期以後の自走式マニアスプレッタの寿命、性能に大きく影響します。

◆最初の20時間目の手入れ

エンジンオイルを交換してください。

◆最初の50時間までの取扱い

①重作業、急発進、急ブレーキなどは避けてならし運転をしてください。無理な作業をしますと摩耗を早めます。

②マニアスプレッタ部のコンベアチェンの張り具合を確認し、調節を行ってください。

◆200時間目の手入れ

ギヤオイルを交換してください。

◆作業する前に

①エンジンはアイドリング（無負荷、低速回転）で暖気運転を3～5分間行ってください。暖気運転は、エンジンの各部の潤滑をよくし、自走マニアスプレッタの寿命を延ばします。また、冬に限らず暖気運転を行う習慣をつけてください。

②空ふかしはやめてください。

③ボルト、電気配線などのゆるみ、その他不良はないか確認してください。

注意

暖気運転中は、走行レバーを駐車にしてください。

2. 走行順序

！ 注意

- 発進するときは周囲の安全を確かめて発進してください。
- 作業中および移動時は、安全のためにヘルメットをかぶってください。
- 作業者の他に人を乗せないでください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は路肩に充分注意してスピードを落として走行してください。

① エンジンを始動させてください。（P12 参照）

②変速レバーにより走行速度にあわせてください。

現場の状況や積載重量に合わせ、速度を決定してください。

③走行クラッチレバーを「入」にすると、クラッチがつながり走行します。

注意

●エンジンを始動させる前に走行クラッチレバーが「切」か「駐車」の位置にあることを確認してください。

●エンジンが始動すれば、3～5分間暖気運転し、その後作業に入ってください。（長持ちするための秘訣です。）

3. 停止順序

①アクセルレバーを「低速」にし、エンジン回転を下げ、車両を減速します。

②走行クラッチレバーを「切」にします。傾斜地では走行クラッチレバーを「駐車」にいます。

③ 緊急停止スイッチを「停止」にします。（P12 参照）

注意

●坂道の停車ではエンジン停止後、変速レバーの位置を前1または後1にしてから下側のクローラと地面の間に車止めをして下さい。

4. 走行時の注意

！ 危険

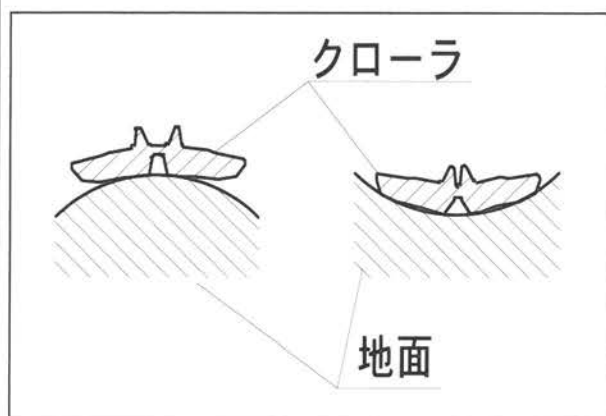
- 高速走行時、レバーを急操作すると、急旋回して危険ですので行わないでください。

運転のしかた

①下記の様な路面で走行すると、ゴムクローラの接地面側に傷が発生し易いので、なるべく避けてください。やむをえず走行する場合は、急旋回をやめ、ゆっくり走行してください。

- ・ 碎石を敷いた路面
- ・ 石の多い路面
- ・ 切り株の多い路面

②下図の様な断面形状の路面では、脱輪が発生しやすいので、ゴムクローラと転輪が外れないようにゆっくりと走行してください。



③シートアタッチ装着車

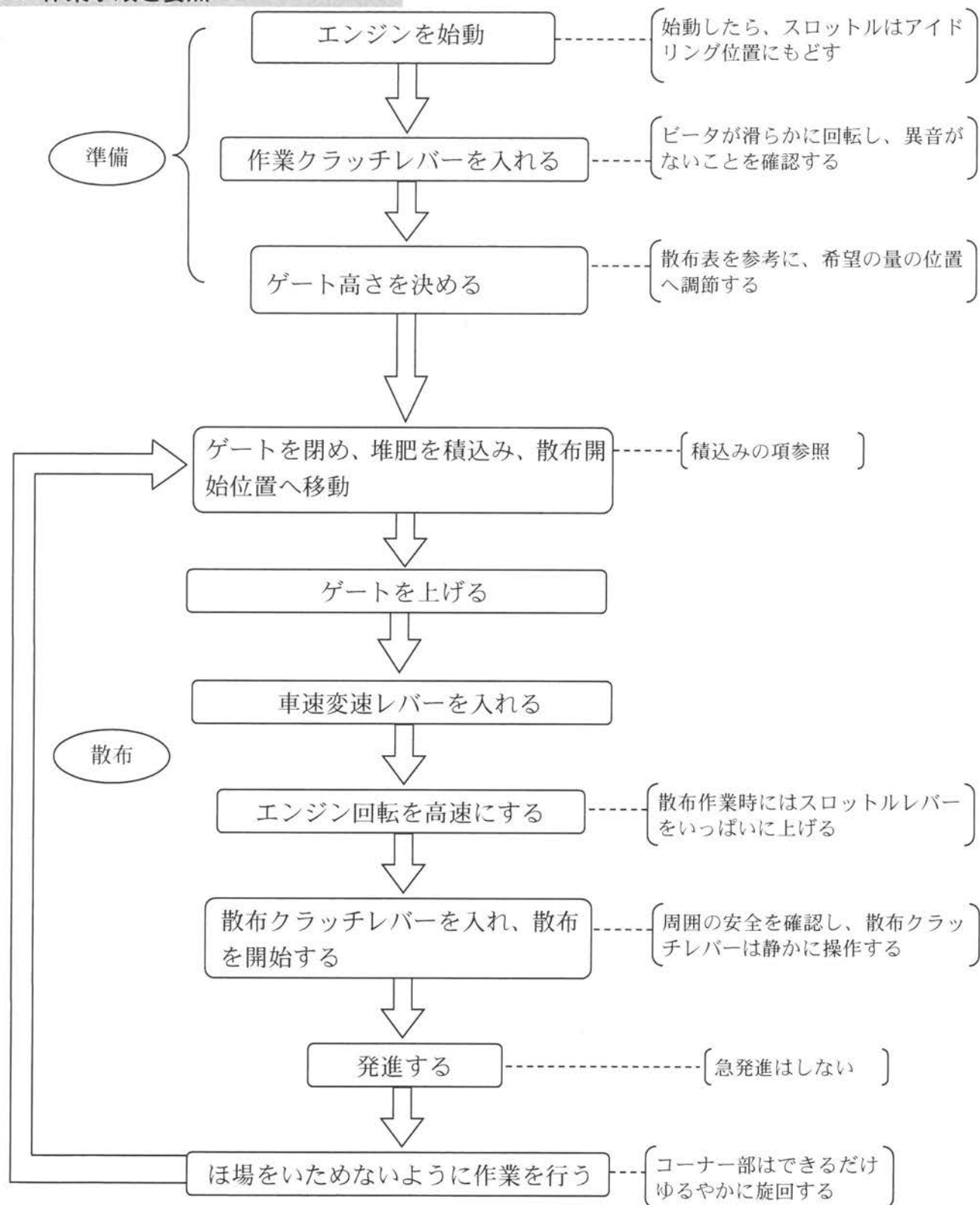


危険

- あぜ越え等、傾斜地を走行および作業する場合は乗車しないでください。本機のバランスが崩れて転倒、転落のおそれがあります。

作業方法

1. 作業手順と要点



注意

- 散布終盤等で荷箱内の堆肥量が少ない時は、エンジン回転を下げて散布してください。
(最後の少量が運転席の方向に飛び散るのを防止するためです。)
- 散布を続ける場合は少量を残し、再び積込みを行ってください。

作業方法

2. 堆肥の積み込み

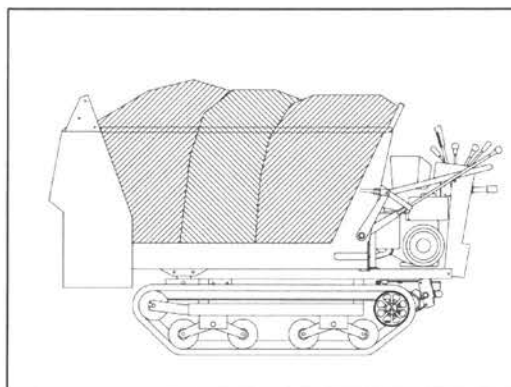
警告

- 本機の積載量は600kgです。規定以上の積み込みを行うと機械が破損するだけでなく、安全な走行・作業が行えません。十分注意してください。
- 堆肥に石や木片が混入すると危険です。積み込む時に十分注意してください。

注意

- 本機は良質（完熟）堆肥散布専用機械です。
生堆肥は散布できない場合があります。
- 湿った堆肥やバーク堆肥を散布する場合は少量散布できません。
ゲート開度4～6を使用してください。

- ①本機を水平な場所に移動し、エンジンを停止して駐車ブレーキをかけてから堆肥の積み込みを行ってください。
- ②堆肥を荷台に積み込む場合にはエンジン側から順に積み込むと、堆肥がほぐれやすくなります。
ワラ入り未完熟堆肥のような負荷や比重の大きい堆肥を散布する時には、積み込み量を少なくするようにしてください。



3. 散布量（ゲート開度）の調節

◆10aあたりの散布量（kg/10a） 完熟堆肥（比重0.3）の場合

開度	前進			後進		
	前進1速 (0.79km/h)	前進2速 (1.40km/h)	前進3速 (2.55km/h)	後進1速 (0.65km/h)	後進2速 (0.87km/h)	後進3速 (2.11km/h)
1	1290	710	390	1530	1140	470
2	1350	740	410	1600	1190	490
3	1460	800	440	1730	1290	530
4	1610	890	490	1910	1430	590
5	1870	1030	560	2220	1660	680
6	2240	1230	680	2660	1990	820

- ・堆肥の散布量はゲート開度と車速（作業速度）とで調節します。
- ・ゲートは6段階に調節できます。
- ・上表を目安に10a当りの希望の散布量に合ったゲート位置、車速を決めてください。

注意

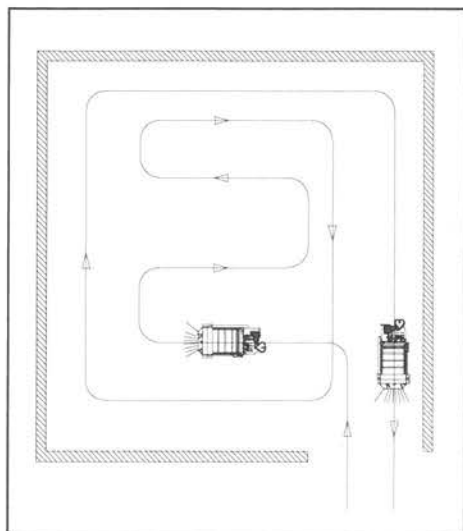
- 散布表はあくまで目安としてください。堆肥の状態により散布量は異なりますので、実際の散布量を見て調節してください。

警告

回転中のピータ・コンベアバー・コンベアチェンに巻き込まれると重傷を負います。手や足を絶対に触れないようにしてください。

作業方法

4. 散布方法



散布方法は、ほ場の中央部より外側に向かって散布します。

中心部は往復散布、ほ場の外側は廻り散布を行うと能率的でクローラへの堆肥付着も少なくてすみます。

注意

- 散布は1～3速で行ってください。なじみ運転期間中は1～2速で行ってください。
- 傾斜地では、作業に充分注意して安全速度で行ってください。

！ 注意

- 散布作業時は、周囲に人がいないか十分に注意してください。
- 散布中は、堆肥中に混入した小石などが飛散する場合がありますので決してマニアボックス内へ顔を出さないでください。

5. 移動するときは

本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラック等で運搬してください。

6. トラックへの積込み・積降ろし

トラックへの積込み・積降ろしは、次の要領で行ってください。

おもわぬ事故につながる恐れがありますので積込み、積降ろしとも十分注意してください。

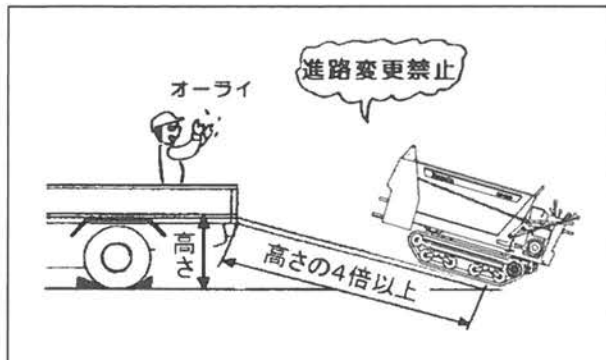
！ 警告

- 積込み・積降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実にかけてください。
- 機械が不意に動いたときに危険ですので、周囲には立たないでください。
- 旋回クラッチレバーを操作してアユミ板の上での進路変更は絶対に行わないでください。
クローラがアユミ板から外れて**転倒**する恐れがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分に注意してください。
特に、スピードの速い時には転倒の恐れがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ① トラックおよびトレーラへの積込み・積降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立合いのもとで行ってください。
- ② 積込み・積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めの加工のある1本で600kg以上の荷重に耐えられるものでトラック荷台高さの4倍以上の長さのものをご使用ください。
幅は本機クローラ幅の1.5倍以上のものを使用してください。

作業方法

- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実にかけて外れないことを確認してから、本機の積降ろしを行ってください。
- ④積込み時の车速は最低速度で安全運転をしながら行ってください。
- ⑤トラックおよびトレーラへの積込みは必ず、前進走行で行ってください。



！ 危険

- トラックおよびトレーラへの積込み時は乗車しないでください。
(シートアタッチ装着車)
- 積込み及び積降ろし時は変速レバーを操作しないでください。
ギヤ抜けして本機が暴走するおそれがあります。
- 積込み及び積降ろし時は荷箱内に堆肥や物を入れないでください。

7. トラックおよびトレーラでの運搬

！ 警告

丈夫なロープを本機にかけ、確実に固定し、本機の駐車ブレーキをかけてください。
守らないと、急ブレーキをかけた時などに荷台から本機が転落する恐れがあります。

注意

- 本機を運搬する時は積載量1.0 t以上で十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し、運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。
- 本機を運搬する時は荷箱内に堆肥や物を入れないでください。

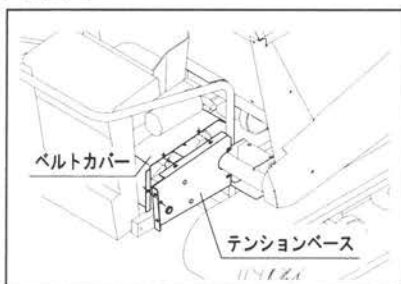
簡単な手入れと処置

警告

- 各部のカバーを開けたり、調整をする時は、必ずエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。
- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

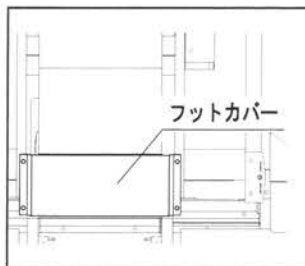
1. カバーの取り外し方

◆ベルトカバー



- ① ボルト (3 本) を緩め、ベルトカバーを取り外します。
- ② ボルト (4 本) を緩め、テンションベースを取り外します。

◆フットカバー



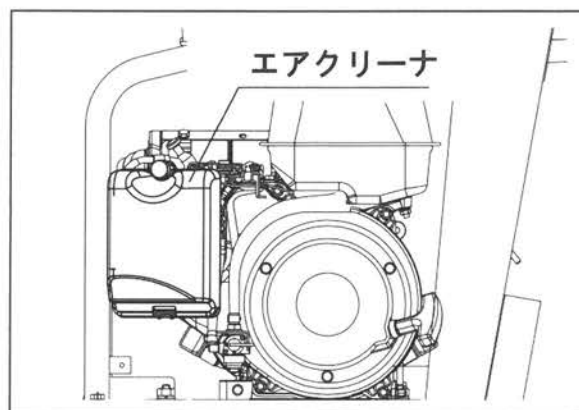
ボルト (4 本) を緩め、フットカバーを取り外します。

2. エンジンの点検・調整

※ エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全を願います。

3. エンジンのエアクリーナ (重要)

本機はホコリの多い環境で使用されるため、エアクリーナの点検・清掃が大変重要となります。下記に従い、作業前には毎日点検・清掃を行ってください。守らないと、エンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり寿命が大きく低下する原因となります。付属の「エンジンの取扱説明書」に従って清掃・交換願います。

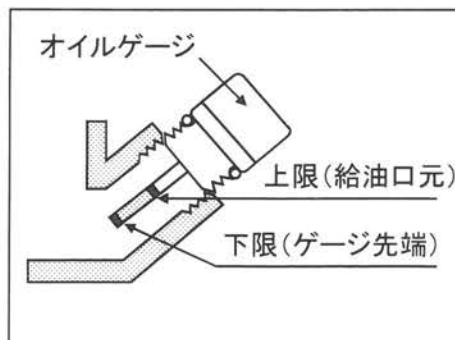


4. エンジンオイルの点検と交換

◆オイル量の点検

運転前に必ずオイル量を点検し不足している場合は、正規油面まで補充してください。

- 機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。
- 「下限」以外の場合は、口元まで補給してください。



簡単な手入れと処置

エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。

◆オイルの交換

エンジンオイルの交換時期

初回 : 20時間後

2回目より : 50時間毎

- ① ドレンプラグをはずし、エンジンオイルを抜く。



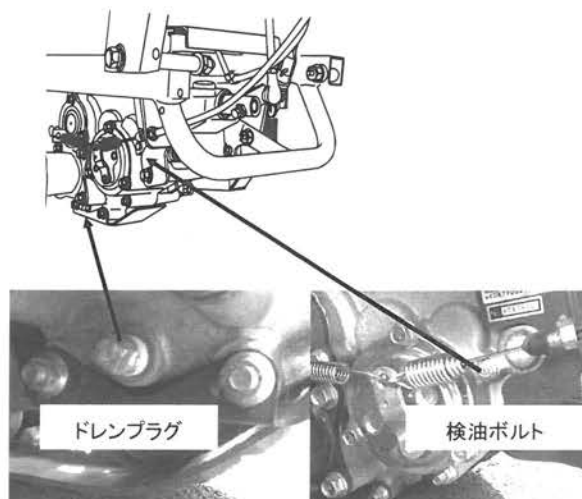
- ② ドレンプラグをきれいに洗い、確実に締付けてください。
- ③ エンジンオイル0.6ℓ(10w-30)を計量してジョッキに入れ、注油してください。
- ④ オイルが規定量入っているか、確認してください。

！ 注意

熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので、エンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。

オイル交換・エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

5. ギヤボックスのオイル交換



- ①機体を水平な場所へ移動します。
- ②ドレンプラグを取り外し、オイルを排出します。
- ③ドレンプラグを取り付けます。
- ④給油プラグを取り外します。
- ⑤給油口より指定オイルを補給します。
- ⑤ 給油プラグを取り付けます。
- ギヤボックス内に検油ボルトで指定オイルが入っていることを確認し、不足している場合は注油口から検油栓の位置まで給油してください。

メインケース-2.0ℓ

指定オイル

●ギヤオイル

SAE分類 80w-90

API分類 GL4 または 5

●オイル量

2.0ℓ

●オイル交換時間

1回目 : 50時間

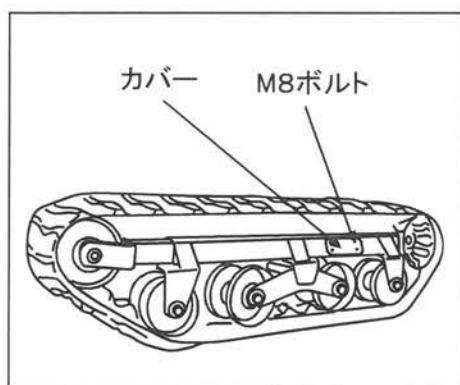
2回目以降 : 年1回シーズン初め

簡単な手入れと処置

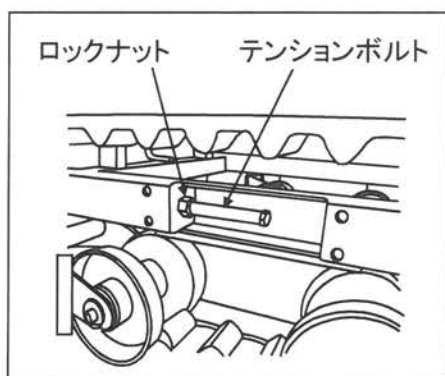
6. クローラ張力の調整

クローラは新品時には初期伸び、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。

- ①トラックフレーム中央部に、4つのボルト（M8）で取り付けてあるカバーを外します。このカバーは、クローラ張り調整かクローラ交換以外は常に取り付けてください。



- ②トラックフレームカバーの内にテンションボルトがあります。ロックナットを緩めてからテンションボルトで調整してください。



- ③クローラ中央部を10kgで押したとき、12～15mmクローラがたわむようにテンションボルトで調整してください。

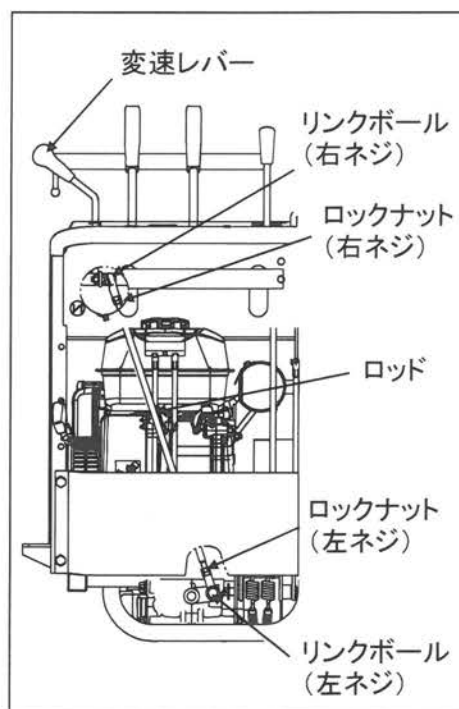
注意

- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
- 調整後、ロックナットは確実に締め込んでください。
- ボルトのネジ部に調整後、グリスを塗布しておくことで錆の発生を防ぎ、以降の調整が容易となります。
- クローラの張りすぎにご注意ください。作業中、クローラ内接面に土が多量に付着した場合は、都度エンジンを停止し除去してください。また、使用後は付着した土を水洗い除去してください。

土噛みは放置しておくことで、クローラの異常張力の原因となり、ギヤボックス及び走行部の損傷をまねきます。

7. 変速レバーの調整

変速レバーは各部のヘタリ等により、ガイドのラベルに対してズレが生じることがあります。ズレが生じた場合は速やかに調整してください。

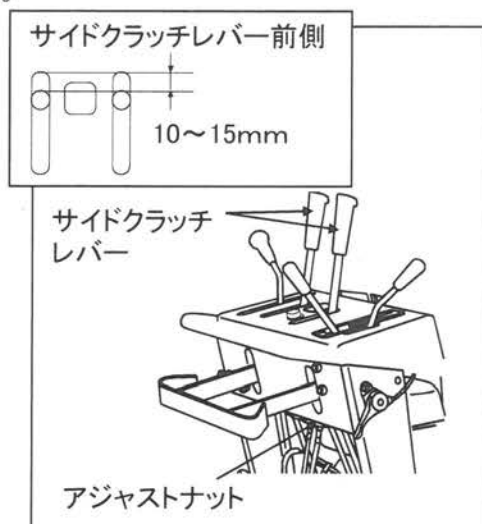


簡単な手入れと処置

- ① 前進 2 速で走行し、停止後走行クラッチレバーを駐車位置にします。
- ② リンクボールのロックナットを緩めて、ロッドを伸縮し、変速レバーをラベル「前 2」位置に合わせます。
- ③ 調整後リンクボールのネジレが無い様に、ロックナットをロックします。

8. サイドクラッチの調整

長期間使用している間にサイドクラッチの各部に遊びが発生し、調整が必要となります。



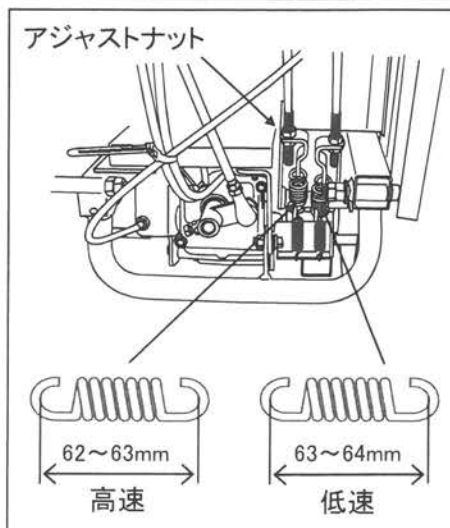
機体を前・後進させてギヤボックス内でサイドクラッチギヤが噛み合っている(直進状態)状態にした時、サイドクラッチレバーを軽く引き、サイドクラッチレバーと長穴の隙間が10~15mmになるように、ハンドル側のサイドクラッチワイヤのアジャストナットにて調整してください。

注意

- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。

9. 走行クラッチの調整

走行中Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。



走行クラッチを「入」にした状態で、スプリング寸法が高速が62~63mm、低速が63~64mmになるように調整してください。調整は、高速と低速を同時に調整してください。

警告

走行クラッチの調整が不十分な場合には、走行クラッチレバーを「入」にしてもベルトがスリップして、動力の伝動が悪くなり、走行できなくなり、坂道で暴走する恐れがあります。

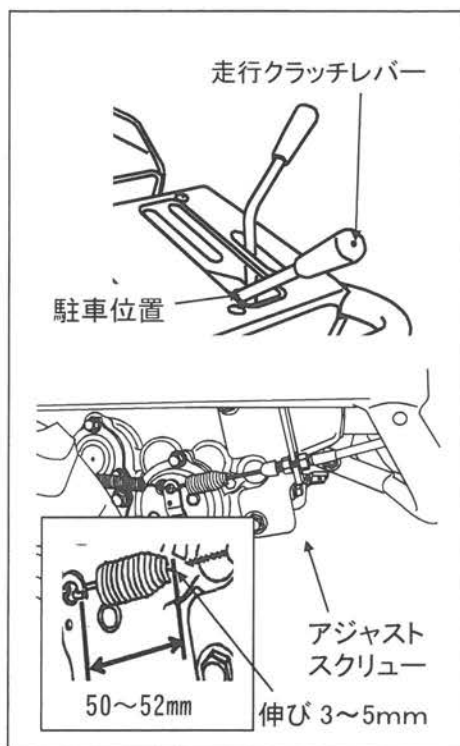
作業前には必ずベルトをチェックしてください。

10. ブレーキの調整

ブレーキの効きが甘くなったら調整してください。

本機は、走行クラッチレバーを「切」位置より手前に引くと、ブレーキが効き始める構成となっています。

簡単な手入れと処置



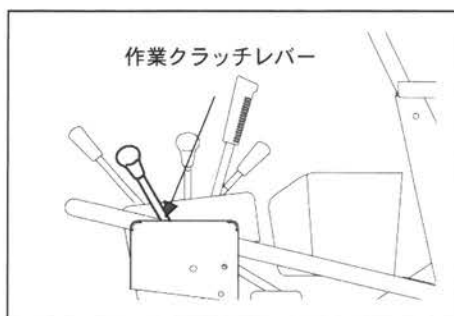
ブレーキの効きが弱くなったときは、走行クラッチレバーを駐車位置にフックした時、スプリングの伸びが3～5mm（全長50～52mm）になるように、アジャストスクリューにより調整してください。

注意

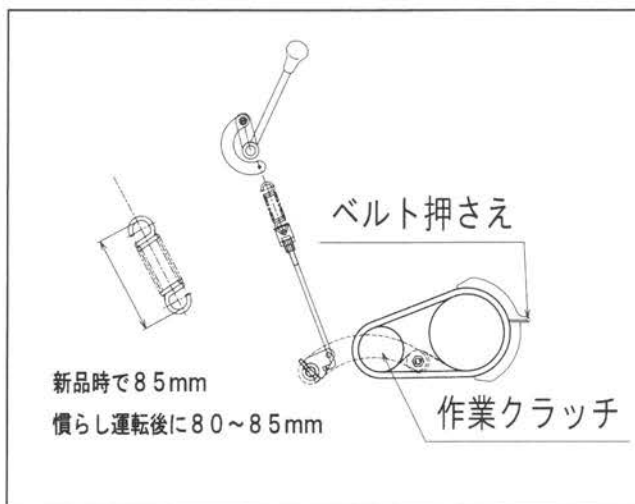
- アイドリングで走行し、ブレーキ部の異常発熱・異音がないこと。

11. 作業クラッチの調整

散布作業中（始動時は除く）Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。

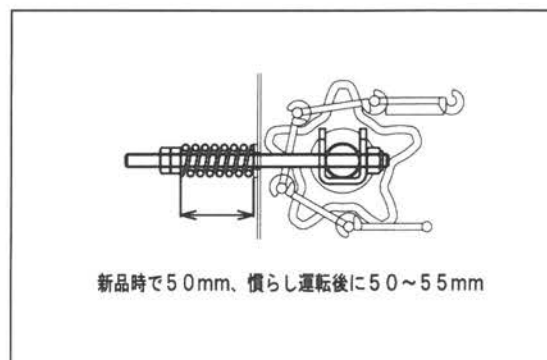


- ① 作業クラッチを「入」にします。
スプリングの内寸法が新品時で80mm、慣らし運転後に80～85mmになるようにネジで調整してください。
- ② 作業クラッチを「切」にしたとき、クラッチが完全に切れることを確認してください。
- ③ 切れない場合はベルト押えで調整してください。



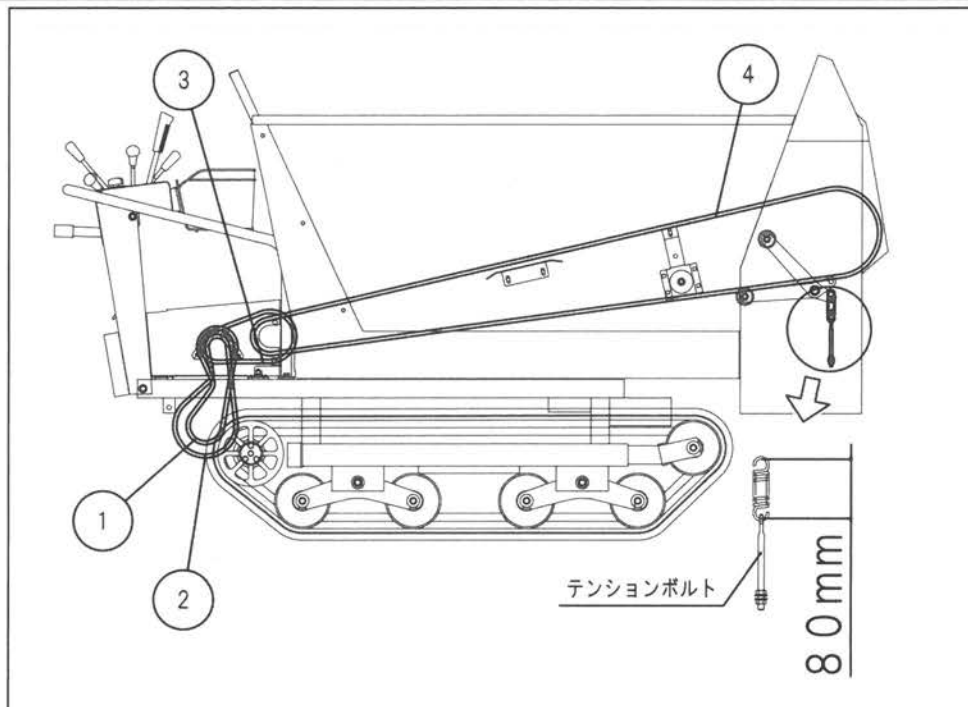
12. コンベアチェンの調整

床送りのコンベアチェンは、長期間使用すると伸びが生じます。時々、張り具合が規定通りかどうかチェックし、伸びている場合は、機体の前方にあるコンベアチェン張り用のナットで調節してください。圧縮バネの長さは、新品時で50mm、慣らし運転後に50～55mmになるように調整し、調節後ロックナットで固定してください。



簡単な手入れと処置

1 3. 各部のベルトの調整



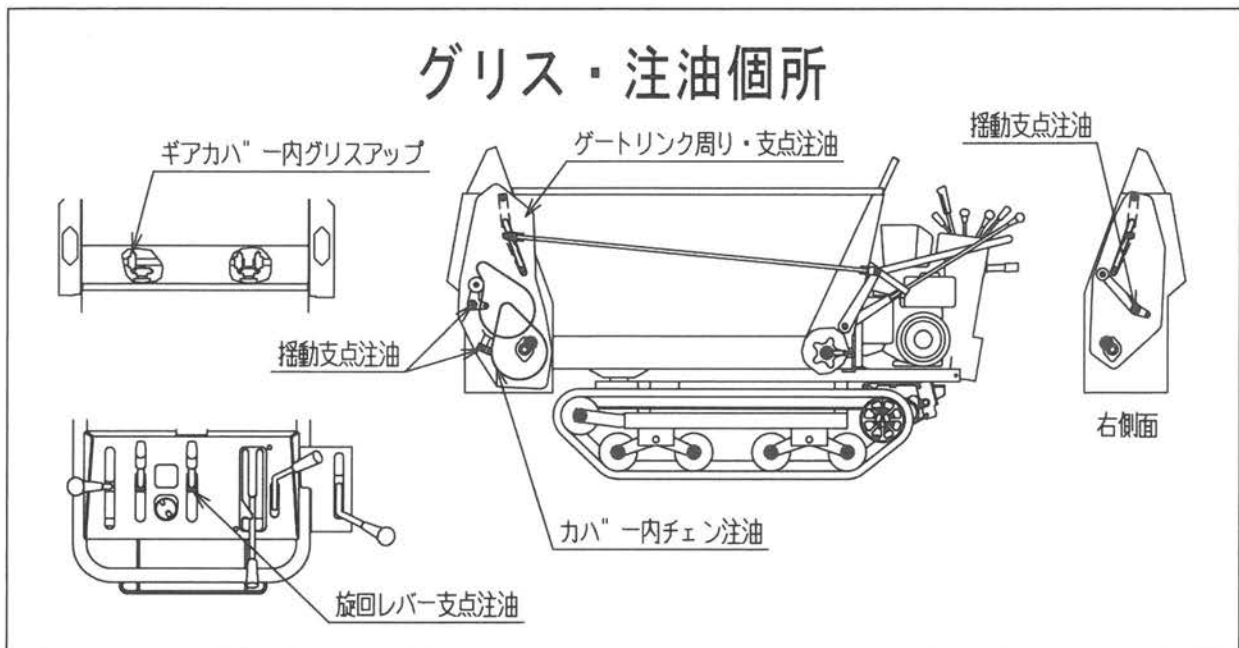
各Vベルトの調節は次表に従い、行ってください。
ベルトに損傷がある場合は早めに交換してください。

ベルトのサイズ		調節方法	張りの程度
①	S B 3 0 H P 4 (コグベルト) (A0353-5100-120)	走行クラッチレバーを「切」状態でベルトが止まり、「入」状態でベルトが廻っているように、P 2 6 の走行クラッチの調整を参考に調整してください。	ベルトの中央部を指で押し（約 3 kg）1 0 ～ 1 5 mm のたるみがあること。
②	S B 3 2 H P 4 (コグベルト) (A0347-5100-120)		
③	L B - 2 5 (スーパーゴールド) (03610-5120-250)	作業クラッチが「入」の状態でクラッチが入り、「切」の状態でクラッチが切れているように、P 2 7 の作業クラッチの調整を参考に調整してください。	
④	L A - 1 4 1 (ニューオレンジ) (03610-2111-410)	ベルトテンションバネ長さが 8 0 mm になるようにバネ調整してください。	

簡単な手入れと処置

14. 各部への注油、グリスアップ

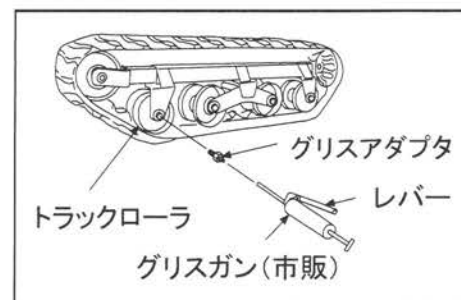
主な給油箇所を下图に示します。



注意

作業条件が悪い場合や、連続作業で稼働時間が長いときは早めに注油、グリスアップを行ってください。

トラックローラの注油箇所は右図のとおりです。



- トラックローラ締付けボルト (M10) を取り外して、同梱のグリスアダプタをねじ込んで市販のグリスガンでグリスを注入してください。
- 各トラックローラには、出荷時にグリスを十分に注入しています。グリスを入れ過ぎるとトラックローラが回転しなくなる恐れがあります。グリスは入れ過ぎないでください。
- グリス注入量の目安は、手動式グリスガンで、1～2回レバー操作し注入します。レバーが重くなるか、トラックローラ内部からグリスがあふれ出たら、直ぐに注入を停止してください。エア式グリスガンでは入れ過ぎにより、トラックローラが回転しなくなる恐れがありますので使用しないでください。

簡単な手入れと処置

15. 日常の管理について

- ピーターに堆肥が付着していると散布性能が変化します。いつも、きれいにしておいてください。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。

警告

残った堆肥の取出しや掃除をする時は、作業クラッチを切り、エンジンを完全に停止させてから行ってください。

16. 長期格納時の手入れ

長期にわたって、ご使用にならない時は次のことを行い本機を保管してください。

- 水洗いをし、付着した堆肥や埃などを落とし、異物を取除いてください。
- 乾燥後は、各回転部・摺動部には充分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料等を塗り錆びが出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- エンジンの燃料タンクからガソリンを完全に抜いてください。また、燃料パイプ等に残ったガソリンはエンジンを始動し使い切ってください。
- 給油箇所には注油あるいはグリスアップをしてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦な所で保管してください。

17. 使用済廃棄物の処分について

機械の廃油等廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てるときには、販売店、又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●エンジンが始動しない	●緊急停止スイッチ不良 ●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料コックが「閉」になっている ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている	●交換する ●コネクタ、リード線を点検する ●ガソリンを補給する ●燃料コックを「開」にする ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する	12 (エンジンの取説) 12 — —
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナが目詰まり ●チョークが戻っていない	●エレメントを清掃する ●チョークを戻す	(エンジンの取説)
●走行しない	●変速レバーが「N」になっている ●走行用Vベルトがスリップしている ●走行用Vベルトがきれている	●変速レバーをいれる ●Vベルトの張りを調整する ●Vベルトを交換する	15 29 —
●駐車ブレーキが効かない	●駐車ブレーキ（走行クラッチレバー）の調整不良	●駐車ブレーキワイヤの調整をする	27
●旋回しにくくなった	●サイドクラッチワイヤがのびている	●サイドクラッチワイヤの調整をする	27
●散布しない	●作業用Vベルトがスリップしている ●作業用Vベルトが切れている ●ゲートが閉じている ●ビータの石噛み	●Vベルトの張りを調整する ●Vベルトを交換する ●ゲートを開ける ●異物を取り除く	29 — 16
●散布量が少ない	●ビータに長ワラ、草などが巻き付き、ビータの作用が不十分 ●ゲートの開きが不十分	●巻き付いているものを除去する ●ゲートを開ける	— 16

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●散布幅が狭い	●作業用Vベルトがスリップしている	●Vベルトの張りを調整する	29
	●ビータの羽根が変形、脱落している	●新しい部品と交換する	—
	●堆肥を積みすぎている	●適正な積み方をする	21
●コンベアが動かない	●シェアボルトが切れている	●シェアボルトを交換する (M6×25 4T 半ネジ)	

付 表

1. 主要諸元

品名		自走マニアスプレッタ	
型式		SD-600	
ビータ形式		縦ビータ	
車体寸法	全長	2,340mm	
	全幅	1,130mm	
	全高	1,310mm	
地上高	側板地上高	1,150mm	
	床面高さ	540mm	
機体質量（乾燥）		480kg	
荷台寸法（L×W×H）		1,560～1,000×890×610	
最大積載量		600kg（JIS 荷箱容量1.0m ³ ）	
ゴムクローラ寸法	クローラ幅	250mm	
	中心間距離	700mm	
	接地長	900mm	
接地圧	空車時	10.4kPa（0.11kg/cm ² ）	
	積載時	23.4kPa（0.24kg/cm ² ）	
旋回方法		爪クラッチ方式	
速度	前進	1速	0.79km/h
		2速	1.40km/h
		3速	2.55km/h
		4速	4.54km/h
	後進	1速	0.65km/h
		2速	0.87km/h
		3速	2.11km/h
		4速	2.83km/h
エンジン	型式	Kawasaki FJ180G	
	出力	最大4.4kW（6.0ps）	
	燃料タンク容量	3.2L	
散布幅	有効散布幅	1.5～4.0m	
	最大散布幅	8.0m	

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

付 表

2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	員数	備 考
コンベアチェン	1 1 6 0 1 - 1 3 2 3 - 0 0 1	—	
コンベアバー	4 0 1 0 6 - 1 3 6 0 - 0 0 0	—	
Vベルト (高速) (エンジン→ギヤボックス)	A 0 3 5 3 - 5 1 0 0 - 1 2 0	1	S B 3 0 H P 4 (コグベルト)
Vベルト (低速) (エンジン→ギヤボックス)	A 0 3 4 7 - 5 1 0 0 - 1 2 0	1	S B 3 2 H P 4 (コグベルト)
Vベルト (エンジン→中間軸)	0 3 6 1 0 - 5 1 2 0 - 2 5 0	1	L B - 2 5 (スーパーゴールド)
Vベルト (中間軸→ピータ)	0 3 6 1 0 - 2 1 1 1 - 4 1 0	1	L A - 1 4 1 (ニューオレンジ)
ボルト M6×25 4T半ネジ	0 1 1 1 4 - 0 0 6 0 - 2 5 0	1	
ナイロンナット 6	0 2 3 1 1 - 4 0 0 1 - 0 6 0	1	